

● C 目的：中心概念 「地方の創生」は地域の「古文書救済」から（高齢者・主婦・身障者へ技術伝授）

◆「古文書の復活」： 今まで消滅・劣化・廃棄されている各地域の古文書 → 所在調査・**地域興しの基盤**「住民が喜ぶ」
「補修」と「デジカメ撮影」など日本製品を基礎とした「クールジャパン技能」の伝承が可能

- ◆「**技術者の不足**」： プロ職人の「技術が温存」されている
- ◆「**仕事量の不足**」： 高齢者の仕事量の不足
(内需拡大 ⇒ 外貨獲得 のための技術)
- ◆「**仕事場・社交場の不足**」： 作業の場・コミュニティの場の不足

→【提案B **技術を養成させる**】

→【提案C **国内外から受注**】

→【提案D・E **仕事場 & 社交場の設置**】 予算の捻出



● S 状況 [詳細1](#)

- ◆「古文書」： は [世界遺産に相当\(動画\)](#)
しかし「天災・人災」で(消滅・劣化・廃棄)
- ◆「技術者の不足」： 仕事量の不足 養成の「仕組み」要す
- ◆「仕事量の不足」： 世界各国の仕事の発注先が「低賃金」
の「東南アジア地域」に集中
- ◆「仕事の場所・社交場」の不足： 高齢者・主婦・身障者等の
共同の「仕事場」と高齢者の「社交場」の不足
「病院がサロン化」、「働けない・働かない」理由



● i 具体案(提案) [詳細1](#)

- ◆「地域興しの基本」：
「古文書の情報」で 地域特性の「再確認」
10年後では不可能：[現場\(動画\)](#)・[詳細](#)
- ◆「技術者の不足」 提案B
- ◆「仕事量の不足」 提案C
- ◆「仕事の場所・社交場」の不足： 提案D・E
- ◆簡単な作業：[補修](#)・[撮影](#)・[撮影\(動画\)](#)



● V 判断 [詳細2](#) (急務)

- ◆「古文書の消滅」： 「天災・人災」の対策をしないと「消滅」
…「取返し」がつかない
- ◆「高齢化社会」： 「手に職」をつける必要性が急務
「仕組み・予算があれば」高齢者等のセミプロ化・プロ化が可能

● P 実行計画 [詳細3](#)

- ◆セミプロ化： 1～6ヶ月で「セミプロ化教育」を実行
- ◆実証実験： 2000年から1年間、仮称「古文書 救済会」を作成し、東京近郊の1県で実証実験（例：閉鎖している小・中学校等を再利用して新しい仕事場・新しい社交場の設置）
- ◆長期予算： 実証実験後に全国47都道府県において長期予算（2000年から3～5年）を立て、実現化が可能